

# 第8回日本アゼルバイジャン経済合同会議

## はじめに

2014年2月26日、東京の如水会館において、日本アゼルバイジャン経済委員会およびアゼルバイジャン共和国日本経済協力国家委員会主催の下で「第8回日本アゼルバイジャン経済合同会議（以下、合同会議）」が開催された。

今回の第8回合同会議はシャリホフ・アゼルバイジャン共和国副首相兼国家委員会議長（以下、副首相）を団長とする同国政府関係者17名（在日アゼルバイジャン大使館含む）から成る代表団が来日し、アゼルバイジャンの経済情勢、経済政策の方向性、様々な分野における日本とアゼルバイジャンの協力の現状と展望等についての報告が行われた。日本側は日本アゼルバイジャン経済委員会会員企業の他、メーカーや銀行、政府および政府関係機関より、総勢約90名が参加した。以下では、第8回合同会議の概要を紹介する。

## 第8回日本アゼルバイジャン経済委員会合同会議 プログラム

| 時間          | プログラム                                                  |
|-------------|--------------------------------------------------------|
| 9:00-9:30   | レジストレーション                                              |
| 9:35-9:40   | 【開会挨拶】                                                 |
| 9:40-9:45   | ●小林洋一・日本アゼルバイジャン経済委員会会長／伊藤忠商事(株)代表取締役副社長執行役員           |
| 9:45-9:48   | ●シャリホフ・アゼルバイジャン共和国日本経済協力国家委員会議長・副首相                    |
| 9:48-9:55   | ●岸信夫・外務副大臣                                             |
|             | ●ハラホフ・アゼルバイジャン共和国外務省次官                                 |
| 10:00-10:15 | 【基調講演】                                                 |
|             | ●小林洋一・日本アゼルバイジャン経済委員会会長                                |
|             | 「日本・アゼルバイジャン二国間経済関係の現状と展望」                             |
| 10:15-10:30 | ●シャリホフ・アゼルバイジャン共和国日本経済協力国家委員会議長・副首相                    |
|             | 「アゼルバイジャンの社会経済発展の現状および日本・アゼルバイジャン経済関係の発展」              |
|             | 【報告】                                                   |
| 10:30-10:40 | ①柳沢香枝（独）国際協力機構（JICA）東・中央アジア部部長                         |
|             | 「アゼルバイジャンにおけるJICAの活動と今後の協力可能性」                         |
| 10:40-10:55 | ②N.サファロフ アゼルバイジャン共和国経済産業省次官                            |
|             | 「アゼルバイジャンの経済・貿易・投資環境整備政策の現状と日本との経済協力」                  |
| 10:55-11:05 | ③I.マメドフ アゼルバイジャン共和国通信・情報技術省次官                          |
|             | 「情報技術分野における日本との協力の可能性」                                 |
| 11:05-11:15 | ④山崎徳夫 伊藤忠商事(株)バクー事務所長                                  |
|             | 「スマート街路照明サービス～必要最低限の費用で最大限の省エネ、維持管理の効率化を実現～」           |
| 11:15-11:25 | ⑤A.バダロフ アゼルバイジャン共和国代替・再生可能エネルギー庁長官                     |
|             | 「アゼルバイジャン共和国代替・再生可能エネルギー庁の役割と今後の展望」                    |
| 11:25-11:35 | ⑥J.バイラモフ アゼルバイジャン共和国教育省次官                              |
|             | 「日本とアゼルバイジャンとの教育・人材育成分野での協力の可能性」                       |
| 11:35-11:45 | ⑦足立誠 川重テクノロジー(株)システム開発事業部ITシステム部<br>谷義隆 国際計測器(株)試験器営業部 |
|             | 「日本防災プラットフォーム個別検討会プロジェクト」                              |
| 11:45-11:50 | ⑧E.ナシロフ アゼルバイジャン国営石油会社（SOCAR）副社長                       |
|             | 「SOCARと日本企業との協力」                                       |

|             |                                                           |
|-------------|-----------------------------------------------------------|
| 11:50-12:10 | ⑨Z.ママドフ スムガイト化学インダストリアルパーク副社長<br>「スムガイト化学インダストリアルパークについて」 |
| 12:10-12:30 | 質疑応答                                                      |
| 12:30-12:35 | 【総括】<br>●小林洋一・日本アゼルバイジャン経済委員会会長                           |
| 12:35-12:40 | ●シャリホフ・アゼルバイジャン共和国日本経済協力国家委員会議長・副首相                       |
| 12:40-12:50 | 【署名式】第8回経済合同会議議定書                                         |
| 13:00-14:30 | 日本アゼルバイジャン経済委員会主催レセプション<br>(於: 如水会館・ペガサスルーム)              |

## 開会挨拶・基調報告

日本側議長である小林洋一・日本アゼルバイジャン経済委員会会長／伊藤忠商事(株)副社長(会長)は冒頭の挨拶で、アゼルバイジャン代表団の来日を歓迎し、日本とアゼルバイジャン双方の報告者について紹介した。

アゼルバイジャン側議長のシャリホフ副首相は日本側の歓迎に感謝の意を表明した。

来賓として合同会議に参加した岸信夫・外務副大臣は、アゼルバイジャンにおける日本の様々な活動について説明し、これらの支援がアゼルバイジャン国民の生活向上に貢献することへの期待を表明した。また、2013年12月に日本外務省の招へいでアバソフ共和国通信・情報技術大臣(現通信・高度技術大臣)が訪日したことについて触れ、情報通信、宇宙など幅広い分野で日本とアゼルバイジャンの協力が広がっていくことに対する期待も表明した。

岸外務副大臣の挨拶に応える形で、ハラフォフ外務省次官がコメントを加えた。日本企業のアゼルバイジャン経済に対する積極的な関与についてすでに優れた成果を挙げていると評価した上で、今後のさらなる協力関係の拡大に

期待を表明した。また、アゼルバイジャンのコーカサス地域における経済ポテンシャルが高いことを強調し、国際的、地域的に日本とアゼルバイジャンの関係が重要であると述べた。

続いて、小林会長は「日本・アゼルバイジャン二国間経済関係の現状と展望」をテーマに基調報告を行った。小林会長は、アゼルバイジャン経済が石油ガス分野だけでなく、非石油ガス分野の発展によって順調に成長していることを高く評価した。そして、従来通り、アゼルバイジャンの主要産業である石油ガス分野における日本の今後の参入の可能性に期待を述べるとともに、日本の持つ高度な技術や資金力、人材を活かして、建設、農業、IT通信、流通などの非石油ガス分野の発展においても日本が貢献できるであろうと語った。

そして、日本とアゼルバイジャンの経済関係の活発化を受け、近年、日本アゼルバイジャン経済委員会の活動も活発化しており、会員数が拡大していること、今後も拡大に努める所存であることを述べて報告を締めくくった。

## シャリホフ副首相基調報告(抄訳)

続いて行われたシャリホフ副首相の基調報告については、アゼルバイジャンの経済について包括的かつ詳細に述べているので、下記に抄訳を掲載する。



尊敬する参加者の皆様、友人の皆様、ご列席の皆様。まずは、アゼルバイジャン共和国大統領イリハム・アリエフ閣下から皆さまへのご挨拶をお伝えしたいと思います。第8回日本アゼ

ルバイジャン経済合同会議において、充実した、成果のある仕事行われることを期待しております。日本側の皆様のホスピタリティそして今回の第8回の合同会議の運営が素晴らしいことに対してお礼を申し上げたいと思います。

**日本とアゼルバイジャンの関係の歴史** 1991年にアゼルバイジャンは独立を回復いたしました。日本は、すぐにこれを承認し、国交を樹立した最初の国の1つでありました。その時以来、両国は敬意と友好を基盤に積極的な協力を行っております。1998年に全国民のリーダーであるゲイダル・アリエフ大統領（当時）が日本を初めて訪問しました。そしてイリハム・アリエフ大統領は2006年に日本を公式訪問いたしました。この2つの訪日が両国間の関係発展にあたって、大変重要な役割を果たしています。

これまでの20年近くにおいて日本政府はアゼルバイジャンに対して全面的な技術的、人道的、財政的支援を与えて来ております。そしてとても重要な分野への融資を行ってくれました。これまでの日本からアゼルバイジャンへの融資は総額10億ドル以上であります。そして直接支援は700万ドル以上になっています。日本はアゼルバイジャンに対する優遇的な融資、そして直接援助を行っている国の中で最も進んだ国であります。

私たちは日本政府、そして日本のすべての組織、機関、日本の企業に心から感謝をしております。特に駐アゼルバイジャン日本大使館の皆様にも感謝したいと思います。大使館の皆様は大きなプロジェクトが実現するにあたっての仲介者を務めてくださっています。

**アゼルバイジャン経済** それではわが国の経済状況について簡単にお話をしたいと思います。2013年、我が国はダイナミックに発展いたしました。経済が大きく発展した年で、GDPは6%成長いたしました。特に、非石油セクターが約10%伸びております。これは近年の改革

の成果であると私たちは考えております。

現在、非石油セクターに関しましては本格的なプログラムが行われております。そして、これからも非石油セクターに関する重要なプロジェクトの実現が進んでいきます。

国民の所得が8%伸びました。これはインフレの3倍の伸びであります。失業率は5%にまで下げることができました。2013年の投資額は280億ドルで、これは過去最大の金額であります。280億ドルのうちの175億ドルが国内の投資であります。現在、外貨準備高は500億ドルになっております。

昨年、アゼルバイジャンにおきましてはいくつもの大規模な国際的イベントが開催されました。まず、バクーにおいては第3回国際人道フォーラムが開催されました。有名な政治家、学者、そして10人のノーベル賞受賞者が参加しました。また、第2回の文化多様フォーラムを開催いたしました。また、ダボス会議、世界経済フォーラムもバクーで開催されたわけであります。これはアゼルバイジャンの国際的なイメージを大いに高めるものであり、また、ダイナミックに発展する近代国家であるということを国際社会が認識する機会になりました。

2013年に国連の安全保障理事会におけるアゼルバイジャンのミッションが終了いたしました。2年間にわたりまして非常任理事国として国連安保理事会で我が国は仕事をしたわけであります。アゼルバイジャンに対する国際社会における支持、信頼が大いに向上いたしました。そして、アゼルバイジャンの影響力は国連における採択の数字においても明らかであります。我が国が安全保障理事会の非常任理事国になるということを日本も含めて155の国が支持いたしました。

**安全保障** さて、社会・経済の発展は平和および安全保障と密接に結びついております。アルメニアとアゼルバイジャンの間の紛争は大

大変残念なことに現在まで続いているわけであり、これはアゼルバイジャンおよびこの地域全体の経済ポテンシャルが十分に実現されるための最大の障壁となっています。アルメニアにおける軍事侵略、およびアゼルバイジャンの国土の20%がアルメニアの占領下にあり、民族浄化をアルメニアが行っているということは大変深刻な問題であります。

アゼルバイジャン国内には現在100万人以上の難民がいます。アルメニアの占領地域におきましては何世紀にもわたってアゼルバイジャンの人々が築き上げてきた成果がすべて破壊されております。歴史的な記念碑も破壊されています。国連は4回にわたり決議を行いました。これは占領地域からアルメニアの武装勢力の即時無条件撤退を求めるものでありますが、アルメニア軍は今も侵略を継続しております。アルメニアの立場は非建設的であり、国際法の原則に従うことを拒否しています。これは円滑な交渉の実現を許すものではありません。

**エネルギー分野** さて、それでは次にアゼルバイジャンと日本の協力を話したいと思えます。アゼルバイジャンと日本の協力においてプライオリティが一番大きな分野はエネルギー分野であります。これは大変充実した形で行われておりましてアゼルバイジャンも日本もともに利益を得ています。ゲイダル・アリエフ前大統領のイニシアチヴと懸命な政策により、1994年に「世紀の契約」が調印されました。これは外国企業とアゼルバイジャンとの協力に新しい可能性を与えるものでありました。

アゼリ・チラグ・ギュネシリ油田開発について、すでに数年にわたってアゼルバイジャンの石油がBTCパイプラインによって輸出されています。現在日本の企業であるINPEXと伊藤忠商事がBTCパイプラインにシェアを持っています。また、アゼリ・チラグ・ギュネシリの開発にもシェアを持っています。

さらに日本企業の東洋エンジニアリング、三菱重工はシマル発電所2号機の建設に参加しております。また三井物産、住友商事、三菱商事といった企業もアゼルバイジャンで成功しております。アゼルバイジャンでプロジェクトに参加してきた、そして現在も参加している企業の皆さんは満足していると確信しています。

近年、アゼルバイジャンの石油・ガス分野のポテンシャルを発展、強化するための歴史的な協定がいくつも調印されました。まず、2012年にTANAPプロジェクトに関する協定が調印されました。そして2013年6月にはトランス・アドリア・パイプライン（TAP）がアゼルバイジャンのガスを欧州に運ぶための主要ルートに認定され、2018年以降、アゼルバイジャンのガスを欧州に販売するという契約が調印されました。さらに、2013年12月17日、バクーにおきましてシャフデニス2に関する投資協定が調印されました。シャフデニス2、TANAP、TAPは合計450億ドルの投資になります。

**非石油ガス分野** 2013年、非石油セクターにおいても本格的なステップを踏み出しました。特にこれは統計によって裏付けられております。

強調したいことは宇宙産業が我が国に創設されたということです。2013年はアゼルバイジャンにおける宇宙産業の創設年として歴史に残ります。アゼルバイジャンで初めての人工衛星第1号、アゼルスペース1が打ち上げられました。私たちはNECをはじめとして、日本企業の皆様とぜひ情報・通信技術、ICT分野でも協力していきたいと思っております。ハイテク製品の共同生産をいたしまして地域の市場へ進出できればと思います。

新しい近代的な観光産業も構築されております。地方には5つ星のホテルが数軒オープンしております。この5年間で新しい観光ゾーンが設置されております。スキー場「シャフダグ」

がアゼルバイジャン北部のクサール地区に建設されました。ここでは4軒の素晴らしいホテルがございます。1軒は建設中です。周辺にはホテルや国際空港などのインフラが整っていると言えると思います。ぜひこの分野におきましては、日本の旅行業界の皆様、毎年バクーで開催されておりますアゼルバイジャン国際観光見本市に参加して頂きたいと思っております。アゼルバイジャン観光協会と日本国際協力機構（JICA）との協力推進も有意義ではないかと思っております。

農業の発展も大変重要な方向性の1つです。昨年、農業の成長は約5%でございました。農業の発展のために最も近代的で進歩的な手段を用いていくことが計画されております。

次に運輸部門ですが、この分野も大きな成果が見られます。まず500kmの道路が敷設されました。幹線道路のみならず農村の道路が建設されまして、4つの集落が結ばれました。またグローバルな輸送プロジェクトが実施されております。バクー〜トビリシ〜カルの鉄道が建設中です。これはこの地域にとって最大規模、最重要輸送プロジェクトの1つとされております。この鉄道の開通は2015年に予定されております。ぜひ日本の運輸機関、関係企業の皆様にこの鉄道を今後貨物輸送に活用していただければと思います。欧州とアジアを約600km縮めて結ぶことができる大変有益な鉄道になると思います。これに関連して、ぜひ日本の方々にはアゼルバイジャン共和国政府と日本政府との間の国際複合貨物輸送協定案のご検討を加速して頂ければと思います。

また、円借款契約が2009年5月29日にJICAと調印されたわけですが、この契約は地方都市下水道整備事業の枠内のものになっております。これにより、下水道の整備を地方中核10都市で実施する予定となっております。この場をお借りして、日本政府の皆様へ御礼を申し上げます。

たいと思っております。ただし、実は非常に残念なことです。この件に関しましてFSで見積額が評価されたわけでございますけれども、この評価価値、見積価格が近年非常に上がってしまいました。従って、追加融資をお願いしたわけで、ぜひ外務省、また日本の財務省また関係省庁また、もちろんJICAも含めて、この下水道整備に関しての追加融資をお願いしたいと思っております。地元住民もこの件に関しまして日本政府から融資がなされてプロジェクトが実現することを非常に期待しております。地元住民はこのプロジェクトを楽しみにしていますので、是非ご検討をお願いしたいと思っております。

次に、近年優先分野として代替・再生可能エネルギーが注目されています。大統領令によって、代替・再生可能エネルギー庁が設置されました。今回その代表も参加しております。この分野において、日本の世界的リーダーともいえる企業の方々にもぜひ参加をしていただき、密接な協力関係を推進していきたいと思っております。この分野に関しては、ファイナンシャル、そして技術的な支援をお願いしたいと思っております。発電所等を共同で建設できればと思っております。発電所としては、風力、太陽光が考えられております。協力の試みとして、おそらく2000年頃に、日本企業トーマスが我々の依頼に基づき、国中を隈なく調査し、風力発電所の建設を目指しましたが、なかなか進まなくなり一旦中断されています。いずれにしても政府からこの分野に関して支援いたします。

さらに、すでにお話がありましたが、今年アゼルバイジャンでは「産業年」と定められています。特にこれに関連して、産業施設の建設が重視されています。これが今後の産業の発展を牽引すると考えられています。その一部として、テクノパークの建設が挙げられます。すでに成果としてスムガイト化学インダストリアルパ

ークがあります。他にも、ミンゲチェビル、また、バクー市のバラハヌイ村にもテクノパークの建設が予定されていますので、日本の大手企業の皆様におかれましても、このテクノパークの建設にご参加いただければと思っております。後ほど、この件に関して私どもの省からもプレゼンテーションがあると思います。

バクーおよびその他の地域においてアゼルバイジャンでは、近年多くの医療・保健施設ができています。昨年末、私の個人的な依頼により、バクーに東芝の代表団の方々に来ていただきました。東芝とはビジネス協力に関するプロトコルが調印されました。バクーに医療センターを建設するという内容です。この分野に関しても、東芝をはじめとして日本の企業の皆様、日本の世界的な先進的な企業の皆様方との協力関係を今後とも積極的に発展させていただきたいと思っております。日本の関係省庁の皆様方におかれましても、ぜひ、この医療分野に関して、たとえば、医療機器の導入もそうでありますが、医療専門家の長期研修プログラムをご検討いただければと思っております。この件に関しましては、大臣の方々との面談の中でもお願いしたいと思っております。具体的にどの分野でということで、私の方で書類がありますが、日本滞在中に具体的な話を進めながら日本側からも具体的なお答えがいただけることを期待したいと思っております。

次に先ほども話がありましたが、私たちの代表団の中には教育省の次官が参加しております。教育分野でも協力をしていきたいと思っております。具体的には職業技術訓練といった分野での今後の協力関係を育もうと思っております。日本では、職業訓練のレベルが非常に高いと思っております。アゼルバイジャンではまだ弱い分野ですので、職業訓練、またさらに専門家が実力アップするための研修を進めたいと思っております。この分野での日本の

協力もお願いしたいと思っております。

さらにもお願いですが、アゼルバイジャンも地震がある国です。日本は地震・災害の分野では非常に豊かな経験を持っておられます。防災や、防災・人災の警告・管理に関して非常に蓄積された豊かな経験がございます。いわゆる非常事態に対する対策が講じられております。我が国にもアゼルバイジャン非常事態省がありますので、この分野での人材育成が大変重要になっております。今回の代表団の中に非常事態省次官も参加しております。この分野での人材育成をぜひ何か協力関係を構築できればと思っております。ご支援をよろしくお願いいたします。

今回の私たちの会議は、私たちの方から様々なプレゼンテーションをさせていただくことになっています。なかでも日本の中小企業のことを学ぶこと、また両国の企業家同士の交流、合同ビジネスフォーラムの開催、貿易拡大の可能性、情報・通信技術や教育、代替・再生可能エネルギー分野での交流、日本モデルのテクノパークの設置・活用などについてプレゼンテーションをさせていただくことになっております。

共同議長、またご列席の皆様、友人の皆様。私どもといたしましては、今後とも日本とアゼルバイジャンの経済交流をあらゆる分野で拡大をしていきたいと思っております。本日の会議によってダイナミックにアゼルバイジャンと日本の関係が深まることを期待していきたいと思っております。あらためまして、皆様にご挨拶を、今後のご成功ご活躍をお祈り申し上げます。大変ありがとうございました。

## 報告

両議長の基調報告に続いて、日本側はJICA、伊藤忠商事㈱、川重テクノロジーがそれぞれアゼルバイジャンにおける活動や協力について報告した。一方、アゼルバイジャン側は経済、

通信、石油ガス、化学、教育など様々な分野の報告を行った。

まず、サファロフ経済産業省次官は、日本とアゼルバイジャンとのあいだには、製造業、建設、エネルギーなどの経済協力に関する10の調印済み文書があり、両国の貿易経済関係の発展に重要な意義を持つと説明した。また日本とアゼルバイジャンの貿易関係についても触れ、貿易高が伸びていること、品目が多様化してきていることを高く評価した。

さらにサファロフ次官は2012年12月に採択された発展コンセプト「アゼルバイジャン2020：将来の展望」について紹介し、工業化とイノベーションの拡大、非石油ガス分野の多角化と輸出の拡大、代替エネルギーの発展といったことが目標に掲げられていることを説明した。そして、このようなアゼルバイジャンの政策に日本との積極的な協力が大きく貢献するとして、両国の経済協力活性化の必要性を主張した。

続いて、マメドフ通信・情報技術省（現通信・高度技術省）次官は、情報・通信技術分野の相互協力において日本とアゼルバイジャンの関係を確立するためのいい土壌が作られており、ポテンシャルが強化されていると語った。アゼルバイジャンにおいて近年、ICT分野は急速に発展している分野であることについても統計数字を挙げて説明した。

また、2013年2月にアゼルバイジャンで初めて、通信衛星の打ち上げが行われたこと、インターネットサービスの自由化が進んでいることなどについても言及した。今後、新しいプロジェクトに対する日本企業の積極的な参加を求め、報告を締めくくった。

バダロフ代替・再生可能エネルギー庁長官は同庁の活動と今後の活動計画について報告した。設立から3年しかたっていない組織であるため、まだ日本との協力実績はないが、一方で、

代替・再生可能エネルギーは両国にとって将来性のある分野であり、今後、世界的に認められている日本企業のハイテク技術をアゼルバイジャンで活用していきたいとの意向を示した。

また、パイラモフ教育省次官は、日本政府の無償支援による、教育機関の建設や修理、教育制度の支援、学生や教員の交換留学プログラムの実施などを具体例として挙げ、アゼルバイジャンの教育システムに対する日本からの多大な貢献に感謝の意を表明した。また、職業技術教育の分野が教育改革において優先分野であることを指摘し、自動車整備、通信・情報技術等の専門家の育成に力を入れていること、それに際して、ファイナンシャルではなく、日本の豊富な経験を活用していきたいと語った。

続いて、ナシロフ国営石油会社（SOCAR）副社長が報告を行った。まず、アゼルバイジャンにおける石油ガス分野の発展について、生産およびパイプライン建設におけるINPEXや伊藤忠といった日本企業との協力を肯定的に評価した。また、最新の成果であるシャフデニス・ガス田第二フェーズの開発、TANAPやTAPパイプライン建設プロジェクトにおける日本企業の参加に期待を示した。

また、今後の日本とアゼルバイジャンとの協力の可能性として、製油所建設、石油化学工場の建設、発電所の近代化などを挙げた。これらの分野における協力関係が両国の戦略的な利益にかなっていることも強調した。

アゼルバイジャン国内で優先的な政策とされている、スムガイト化学インダストリアルパークのママドフ副社長は、同インダストリアルパークについて紹介するとともに、日本企業の参加を呼び掛けた。インダストリアルパークは、非石油分野の安定成長、雇用の拡大、工業生産競争率の向上、企業活動促進など、様々な目的のために設立された。

副社長はインダストリアルパークの魅力を

3つ指摘した。まず、アゼルバイジャンの地理的優位性をから、製品の輸送に便利であることを強調した。また、スムガイトは伝統的に化学分野が発展していた地域であり、既に必要なインフラが整備されている点も指摘した。高品質の電力供給、鉄道へのアクセスの良さ、水資源の確保等がすでに保障されているということである。さらに、アゼルヒミヤという国営の化学会社が近くにあり、原材料の確保、さらには人材の確保も可能であると指摘した。ただし、アゼルバイジャンにおいては労力が安価なわけではなく、質の高い労働者を確保することができるという意味での人材への期待であるということを説明した。

最後にママドフ副社長は日本企業に進出を呼びかける理由について、日本の技術を導入していきたいという意向を強調した。

全ての報告終了後、活発な質疑応答も行われて、双方の参加者によってさらなる意見交換が行われた。紙面の関係でここではその内容を省略するが、日本とアゼルバイジャン双方の参加者の相互関心の高さを象徴するものであった。

## おわりに

まず、この場をお借りし、今回の合同会議にご参加いただいた皆様に多大なる感謝を申し上げます。

私見になるが、アゼルバイジャンに限らず、近年、中央アジアおよびコーカサスに関わるセミナーやフォーラム、その他の事業の実施頻度や実施規模、日本企業による関心が高まっている。これらの国々は各国が競うようにして、資源依存からの脱却、経済多角化、イノベーションというテーマを掲げ、日本の投資や技術協力を求めている。アゼルバイジャンもその流れに逆らうことなく、日本との協力関係の発展を有効に利用し、経済発展を進めようとしている。

今年6月に、(一社) ロシアNIS貿易会では

ROTOBOコーカサスミッションを予定しており、アゼルバイジャンとグルジアを訪問する。合同会議のフォローアップも兼ねて、後日ミッションの報告についても調査月報で紹介する予定である。こういった活動が日本とアゼルバイジャンの経済関係発展の一端となることに期待したい。

(構成：ROTOBO事務局)